

市民活動サポートセンター いなぎ

ニュースレター

No.27

2009.8.15

発行/NPO法人

市民活動サポートセンターいなぎ

事務局/〒206-0802

稲城市東長沼2112-1

稲城市地域振興プラザ1F

市民活動サポートセンター内

電話 042-378-2112

FAX 042-378-6971

E-mail:info@i-inagi-support.org

http://www.i-inagi-support.org/

NPO講座【市民・市職員合同研修】

私が稻城でやりたいコト

～楽しさが続く秘訣～

7月29日に安藤雄太さんを迎えて開催



▲講師の安藤さん

市民のみなさんと稻城市の職員が一緒に学び考える講座が7月29日に開催されました。多数の方に参加していただき、熱心に発言していただきましたのでその様子をご紹介します。

「協働」のプロセスを体験できました

講師の安藤雄太さんは、東京都社会福祉協議会の東京ボランティア・市民活動センターで副所長をされていた方で、現在は退職されてアドバイサーとして活躍されています。

ボランティア活動や協働について詳しく、市区町村行政のプロジェクトメンバーとして参加され、また大学での講師など幅広い活躍をされている方です。

前半の講演では、協働についての話がありました。行政の特性（法律に基づき公平に）とボランティアの特性（早くきめ細かく動ける）は違うのですが、違う者同士が手をたずさえて新たに起きている地域の課題を解決していくのが「協働」だということです。

また、ボランティアなどの活動を続けていくのに必要なこととして、リーダーシップ、組織運営のポイント、対人関係のスキルなどについての説明が

▼グループワークにも熱が入る



ありました。

後半のグループでの話し合いは、自分がやりたい活動や行政と一緒に取り組めることなどのアイディアを出しあって、話し合いをしながらグループの意見としていくものでした。

市民と市職員が一つのテーマを一緒になって話し合うことで、先生が最初に述べた「協働」のプロセスを体験することができました。

(川本)

市民活動支援基金による 今年度の助成団体は…

5月25日に審査会が開かれ、今年度はここに紹介する9団体に助成することが決まりました。

■YOSAKOパーラン事務局

(代表 宮森京子さん)

- ①スタート助成 ②50,000円
- ③NPO《子どもの森》芸術文化振興基金
- ④市内のYOSAKOパーラングループを集結し、市民祭など稻城市をPRできる事業に参加

■南ちゃんの会

(代表 和田さつきさん)

- ①スタート助成 ②30,000円
- ③サポートセンター市民活動支援基金
- ④雑木林の下草刈りや樹木の伐採など、里山保全の手伝いをする活動

■傾聴ボランティア『いすなー』

(代表 鈴木佐登子さん)

- ①ステップアップ助成 ②30,000円
- ③NPO《子どもの森》芸術文化振興基金
- ④ひとり暮らしや施設に入所しているお年寄りを訪ね、傾聴活動を通して、ともに楽しく有意義な時間を共有し、互いに支え合う活動

■子育てグループ間ネットワーク連絡会

こぐまネット

(代表 門脇るみさん)

- ①ステップアップ助成 ②50,000円
- ③NPO《子どもの森》芸術文化振興基金
- ④市内の子育てグループ間の交流や情報交換等のネットワークづくりと仲間づくり

- ①=助成の種別 ②=助成額
- ③=基金の資金提供先
- ④=活動の目的など

■稲城大気汚染測定連絡会

(代表 田中昇さん)

- ①スタート助成 ②40,000円
- ③NPO《子どもの森》芸術文化振興基金
- ④市内の主要道路周辺、教育施設周辺の大気汚染の変化の測定

■NPO法人稲城なごみの家

(代表 滝沢文恵さん)

- ①ステップアップ助成 ②20,000円
- ③サポートセンター市民活動支援基金
- ④高齢者を中心に、みんなが気楽に集い、楽しく過ごせるための場づくり

■いなぎおはなしの会

(代表 大塚和子さん)

- ①ステップアップ助成 ②30,000円
- ③NPO《子どもの森》芸術文化振興基金
- ④子どもたちに楽しいおなしの世界(ストーリーテリング)を提供する活動

■稲城国際交流の会

(代表 藤田佑二さん)

- ①ステップアップ助成 ②20,000円
- ③サポートセンター市民活動支援基金
- ④「交流・理解・協力」をモットーに稻城市民の国際化を推進する活動

■いなぎ社会福祉士会

(代表 中村達也さん)

- ①スタート助成 ②30,000円
- ③サポートセンター市民活動支援基金
- ④稻城市在住、在勤の社会福祉士のネットワークづくりと社会福祉士の活動の普及啓発

NPO《子どもの森》芸術文化振興基金とは

地域の活性化と教育力の充実をめざし、子どもたちの芸術文化活動および健やかな育ちの環境づくりに寄与する芸術文化の振興を目的に設けられた基金です。(代表:荒木重雄さん、専務理事:角田亨さん)

いま、金曜サロンスペシャルが面白い！

「四国遍路の旅42日間」

六月

話し手：森 哲志さん

遍路旅は、朝8時には出発し、午後5時には次の宿に着く、その繰り返しで、その間平均して毎日30キロも歩くのだそうです。

「当然にして初めはきつい、特に3日目になると必ずガヘンとくる。ところが徐々に、脚は悲鳴をあげているのに心は安らいでくるから不思議だ。そしてそれは自分の思考にどっぷり浸かっている時間でもある。それこそが現代人に欠けていることではないだろうか!」

大阪まで新幹線で3時間足らず、ヨーロッパへだってひとつ飛び、そんな時代に42日間もかけて1,200キロを歩く遍路旅にどんな意味があるのだろう?そんな疑問を解き明かしたくて参加したのですが、そんな森さんの言葉に、とても納得できました。

便利で、早くて、効率的なことはいいことで、それこそが“豊かさ”だと勘違いしている私たちに、森さんの遍路旅の話は様々な教訓を提示してくれたように思います。 (小林)

(小林)

「獣医師ってどんな仕事を？」

七
月

話し手：松田 純子さん

松田さんは、小学5年生の時に交通事故にあつた動物を見て獣医師になろうと思ったそうです。その頃の思いを今に引き継いでいるのですから凄いなと感じました。獣医師になるためには、大学でギュウバトンケンニヤンのことを学ぶ・・・と聞いてエツ何のことと思ったら、牛馬豚犬猫のことでした。

獣医師さんでなければ分からぬ面白くて役立つ知識もたくさん披露してくれました。

例えば、イヌの平熱は38℃台、36℃ぐらいになると消化器官が動かなくなるので、温めてあげないといけない……等々。

最後はペットの話でしたが、医療は人間並みになりつつある。高度医療はペットにとって大変なストレス、だから獣医師は飼い主の良き相談相手にならなければいけないということでした。老犬介護の問題も含め、人間と同じだなと感じました。（小林）

(小林)

がんばってます

23



▲小人数で熱心に・・・

この会は平成10年に中央公民館の主催事業として発足しました。現在はボランティア（講師）33名が受講生56名（10か国）に3会場で延べ114回、日本語を教えています。お花見やハイキング、スピーチ発表会などの年間行事も多数行っています。取材当日は土曜日で中央文化センターの会議室と和室を使い大勢の方が熱心に学習中でした。授業は1人対1人

10か国65名が受講中

教材は講師が様々な工夫

稻城日本語 ボランティアの会

代表：加藤 修さん

◆申込み・問合せ…
中央文化センター
(8377-2121)
(稻垣)

皆さんが楽しそうに学んでいた様子を見て「外国の方に日本語を教えるのに英語が出来ないとダメ」という先入観を払拭、まずは日本語が大事であると感じました。

う1人対3人が一組になつて携帶用のホワイトボードやノート、電子辞書などを使用して進めていました。教材は外国人用の日本語教科書、新聞手づくりのカードや絵などを使用して、分かり易くする為に講師が工夫し用意するそうです。敬語を指導中の講師は『彼は若いのでトランプのアンドベの要領でやっている。ゲーム感覚でやると覚えが良く理解も早い』と手づくりのカードと細長いボードを使用していました。

ハッピーリタイアメント講座⑦から

7月4日に第7回目のハッピーリタイアメント講座が開かれました。テーマは「稲城の農と向き合う居場所」

その時の様子を写真で紹介します。



▲「稲城のみどりと農業」をテーマに基調講演をする川島実さん

参加者は60人を超えて、活発に、そして楽しく情報交換が行われました。

訂正

前回（第26号）発行の利用登録団体紹介の表中、「《子どもの森》芸術文化振興基金」は「NPO《子どもの森》芸術文化振興基金」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

すこに。なんとか今年はい
と：真夏の太陽はい
ど：異常気象が次々
集中豪雨・日照不足な
きや、あれ一？竜巻・
46年振りの皆既日
始まつた夏と思
食に始まつた夏と
46年振りの皆既日
と：は変な夏！
集め集め集め集め
編集後記
思つ今日この頃です。
（廣田）

■9月4日（金）

- ・話題：渡辺 賢二さん（明治大学非常勤講師・元稻城市文化財保護審議会委員・平尾在住）
- ・テーマ：「足下の歴史の重み」

稲城は住みやすいまちだと言われていますが、その理由は自然環境が素晴らしいことにあります。

しかし、歴史的な景観や環境も実は素晴らしいものがあるのです。約1万年前から多摩丘陵には人が住み、その後もこの地を舞台に人間ドラマが作られてきました。そうした歴史の重みを考えたいと思います。

■10月2日（金）

- ・話題：宮嶋 克行さん（都立科学技術大学元教授・矢野口在住）
- ・テーマ：「ヘリコプタはどのようにして飛んでいるのか」

ヘリコプタは飛行機とは異なり空中に停まることができます。どのような仕組みでそれができるのでしょうか。

そうした飛行原理や種類、構造、操縦方法等について説明します。

また、操縦し易いヘリコプタを開発するために取られた改善策等についても話をします。

どちらも午後7時～9時

金曜サロンスペシャル

NPO法人「市民活動サポートセンターいなぎ」の会員を募集しています……年会費3,000円